

## 『日本版 CCRC 構想(素案)』

◎本素案は、日本版 CCRC 構想有識者会議が、5回の審議を経て日本版 CCRC 構想の基本コンセプトや具体像を取りまとめたものである。今後、各界の意見や地方の動向等を踏まえ、さらに検討を進め今年夏に中間報告を公表する予定である。

### 1. 日本版 CCRC 構想とは

#### (日本版 CCRC 構想が目指すもの)

日本版 CCRC(1\*構想は、「東京圏をはじめとする高齢者が、自らの希望に応じて地方に移り住み、地域社会において健康でアクティブな生活を送るとともに、医療介護が必要な時には継続的なケアを受けることができるような地域づくり」を目指すものである。

本構想の意義としては、①高齢者の希望の実現、②地方へのひとの流れの推進、③東京圏の高齢化問題への対応、の3つの点があげられる。

#### (高齢者の希望の実現)

最近の意向調査(2\*によれば、東京圏在住者のうち地方へ移住する予定又は移住を検討したいと考えている人は、50代では男性 50.8%、女性 34.2%、60代では男性 36.7%、女性 28.3%にのぼっている。こうした高齢者においては、高齢期を「第二の人生」と位置づけ、都会から地方へ移住し、これまでと同様、あるいは、これまで以上に健康でアクティブな生活を送りたいという希望が強い。また、地方は東京圏に比べて、日常生活のコストが大幅に低いという点で住みやすい環境にある(3\*。日本版 CCRC 構想は、こうした大都市の高齢者の希望を実現する取組として、大きな意義を有している。

1\* Continuing Care Retirement Community

2\* 内閣官房「東京在住者の今後の移住に関する意向調査」(2014年8月)

3\* 第3回日本版 CCRC 構想有識者会議資料：東京と地方のサ高住のコスト比較粗い試算)

#### (地方へのひとの流れの推進)

近年東京圏への人口集中が進む中で、地方創生の観点から地方への新しいひとの流れをつくるのが重要な課題となっており、高齢者の地方移住はそうした動きの一つとして期待されている。日本版 CCRC 構想は、移住した高齢者が地方で積極的に就労や社会活動に参画することにより、地方の活性化にも資することを目指している。

また、地方には長年にわたって医療介護サービスを整備してきた地域が多く存在している。こうした地域では人口減少が進む中で、高齢者の移住により医療介護サービスの活用や雇用の維持が図られる点で意義が大きい。さらに、東京圏からの移住にとどまらず、地方の高齢者についても効果的・効率的な医療介護サービスの確保等の観点から、集住化や「まちなか居住」の推進が重要となっている。こうした地方の住み替えにおいても、日本

版 CRC 構想の考え方は有用であると言える。加えて、構想の推進に当たっては、増加傾向にある空き家や空き公共施設などの地域資源を活用することにより、地域の課題解決にも資することを目指している。

**(東京圏の高齢化問題への対応)**

一方、東京圏は今後急速に高齢化が進むこととなる。特に 75 歳以上の後期高齢者は、2025 年までの 10 年間で約 175 万人増えることが見込まれている。その結果、医療介護ニーズが急増し、これに対応した医療介護サービスの確保が大きな課題となってくる。東京圏においては、医療介護人材の不足が深刻化するおそれがあり、このまま推移すれば、地方から東京圏への人口流出に拍車がかかる可能性が高い。

こうした状況下で、日本版 CCRC 構想は、地方移住を希望する東京圏の高齢者に対して、地方で必要な医療介護サービスを利用するという選択肢を提供する点で、東京圏の高齢化問題への対応方策として意義があると考えられる。

(以下略)